（2022.12）
（情報公開文章用）　　作成日　2025 年 5 月 1 日　第Ⅲ版作成

2009 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日の間に 川崎医科大学附属病院脳卒中科にご入院され、 急性期脳梗塞と診断された方及びご家族の方へ

―「再発した心原性脳塞栓症の特徴」へのご協力のお願い―

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学脳卒中医学	教授	八木田　佳樹
研究分担者	川崎医科大学脳卒中医学	准教授	大山　直紀
	川崎医科大学脳卒中医学	講師	岡崎　知子
	川崎医科大学脳卒中医学	講師	岩本　高典
	川崎医科大学脳卒中医学	大学院生	道勇　慧到

１．研究の概要

脳梗塞発症率を数倍以上に上昇させる不整脈である心房細動は、適切な抗凝固療法を行うことで発症リスクを抑制することが可能です。しかし、適切な抗凝固療法を行っていたにもかかわらず、脳梗塞再発に至る例があります。

本研究の目的は、脳梗塞再発を予防できなかったことと関連する要因を明らかにし、再発予防につなげる有効な治療法開発につなげることです。

２．研究の方法

1）研究対象者

2009 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日の間に川崎医科大学附属病院脳卒中科に入院し、「急性期脳梗塞（脳梗塞発症 7 日以内）」と診断された方を研究対象とします。

2）研究期間

倫理委員会承認日～2029 年 3 月 31 日

3）研究方法

2009 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日の間に川崎医科大学附属病院脳卒中科に入院し、「急性期脳梗塞（脳梗塞発症 7 日以内）」と診断された方の中で、診療情報をもとに対象の患者さんのデータを選び、心房細動に対して適切な抗凝固療法を行っていたにも関わらず、脳梗塞を再発したことと関連する因子を検討します。

4）使用する情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、治療歴、血液検査データ、生理検査、画像検査データ等

5）情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から 5 年間、川崎医科大学脳卒中医学教室実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6）研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についてわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2028 年 12 月 31 日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

＜問い合わせ・連絡先＞

川崎医科大学　脳卒中医学
氏名：八木田　佳樹
電話：086-462-1111　内線 27505（平日：9 時 00 分～17 時 00 分）
ファックス：086-464-1128
E-mail：yyagita@med.kawasaki-m.ac.jp

３．資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。